

大型防災関連施設の現状とその意義

米国のハリケーン・カトリーナ(2005)や14万人の死者を出したミャンマーのサイクロン・ナルギス(2008)などで知られるように、ハリケーン、台風などによる人的、経済的損失は極めて大きく、これらの強風は、多くの場合、豪雨や高潮などの水災害を伴っております。火災、降雪、降雹なども、強風との関連が重要で、これらの複合災害を減らすことは社会的急務であります。

世界の自然災害による経済的損失のトップ3は米国、日本、中国で、2位の日本では毎年1兆4千億円(1991年～2005年の平均)が失われており、これが年々蓄積されているのが現状です。

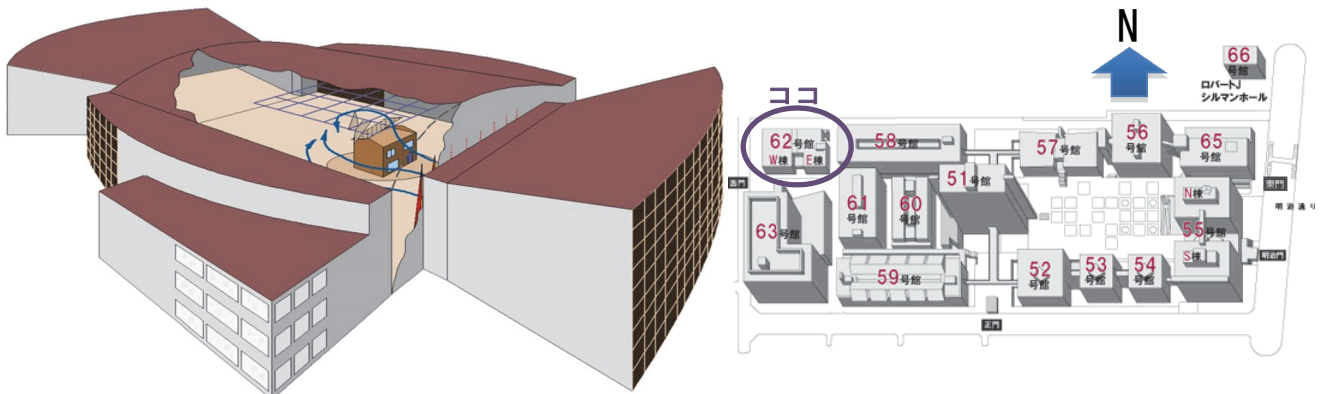
海外では、これらの喫緊の課題を根本的に解決する手段として、実大住宅等を収容して、制御された環境下で、強風、火災、降雪、降雹などの気象イベントを同時に作用させ得る大型ストーム発生装置が建設され、建物の外装材や構造骨組の健全性を実スケールで検証する動きが活発化しております。設計で対象とする数十年、数百年に1回の極稀事象を実スケールで再現し、建物や人命を確保するための研究やシステム開発を効率的に推進しようとするものです。我が国には、世界に範をなす地震に関する大型施設E-ディフェンスは在りますが、残念ながら、実スケールで強風を発生し、激甚な台風や竜巻に対する構造物等のパフォーマンスを確認する施設は存在しておりません。

そこで、我が国の地震、風、火災、雪、雨などによる防災を扱う各分野および関連分野にどのような大型施設が存在し、どのように利用、運営されているかの現状を捉え、将来、風関連防災分野で大型施設を建設することの必要性、意義、あるいはその際に考慮すべき重要事項等を把握することを目的として、研究集会を開催することといたしました。

奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げる次第です。

と き： 2013年12月3日 9:30～15:30

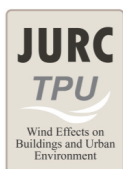
ところ： 早稲田大学理工キャンパス・62号館 (東京都新宿区大久保 3-4-1)



- * 地下鉄副都心線『西早稲田』から直接キャンパス(55号館横)に入れます
- * 地下鉄大江戸線『東新宿』徒歩15分
- * JR／地下鉄東西線／西武新宿線『高田馬場』徒歩15分
- * JR山手線『新大久保』徒歩12分

＜プログラム等の詳細は追ってご連絡いたします＞

問合せ先： 東京工芸大学風工学研究センター・建築構造Ⅱ研究室 (046-242-9547 江藤美鶴)



東京工芸大学風工学共同研究拠点・早稲田大学・東北大学・共同研究集会

大型防災関連施設の現状とその意義

プログラム(案)

09:30 - 09:40	開会挨拶 植松 康, 田村幸雄	東北大学, 東京工芸大学	分野
09:40 - 10:10	長谷見雄二 建物火災の実大実験 (仮)	早稲田大学理工学術院	火災
10:10 - 10:40	酒井 直樹 防災科学技術研究所の大型降雨実験施設の 紹介 (仮)	(独)防災科学技術研究所・大 型降雨実験施設	雨
10 分休憩			
10:50 - 11:20	小杉 健二 防災科学技術研究所の雪氷防災実験棟の紹 介	(独)防災科学技術研究所・(新 庄) 雪氷環境実験所	雪
11:20 - 11:50	井上 貴仁 実大三次元震動破壊実験施設 (E-ディフ ェンス) の概要とその活用	(独)防災科学技術研究所・兵 庫耐震工学研究センター	地震
昼食休憩			
13:00 - 13:30	金子 宗嗣 (予定) 自動車用の大型実験施設 (仮)	本田技術研究所 四輪 R&D セ ンター	自動車
13:30 - 14:00	井門 敦志 鉄道のための大型風洞	鉄道総研 風洞技術センター	鉄道
10 分休憩			
14:10 - 14:40	浜本 滋 航空機開発における JAXA 風洞群の役割	JAXA 航空本部風洞技術開発 センター	航空
14:40 - 15:10	田村 幸雄 実大ストームシミュレータの実現へ向けて	東京工芸大学・風工学研究拠 点	風工学
15:10 - 15:30	まとめ 長谷見雄二, 田村幸雄	早稲田大学, 東京工芸大学	